

孝元天皇、  
かうげんてんわう

孝靈帝の長子なり。  
かうれいてい ちやうし

母は細媛皇后にして、  
はく くほしひめくわひめい

孝靈帝の三十六年、  
かうれいてい

立ちて皇太子となる。  
た くわうたいし

七十六年二月、

孝靈帝崩ず。  
かうれいていほう

元年丁亥、  
ぐわんねんていご

春正月十四日甲申、  
はる きのえさる

天皇、位に即く。  
てんわう くらゐ

時に年六十。  
とき

是を大日本根子彦國牽天皇となす。  
これ おほやまとね こひこくにくるのすめらみこと

皇后を尊びて皇太后と曰ふ。  
くわうたいごう たいご

四年庚寅、  
かのえとら

春三月甲午。  
きのえとら

都を輕に遷し、  
みやこ かるうつ

是を境原宮と謂ふ。  
これ さかひはらのみや

六年壬辰、  
ねんみずのえたつ

秋九月六日癸卯、  
あき みづのとつ

孝靈天皇を葬る。  
こうれいてんわう ほうむ

七年癸巳、  
ねんみづのとみ

春二月二日丁卯、  
はる とうがつ

鬱色謎を立て、皇后となす。  
うつしこめ た くわごうごう

二十二年戊申、  
じちのえねる

春正月十四日壬午、  
はる とうがつ みのえつま

稚日本根子彦大日日尊を  
わかやまとねこひこふとひびのみこと

立て、皇太子となす。  
た くわうたいし

五十七年癸未、  
みちのひつこ

秋九月二日癸酉、  
あき みづのとつ

天皇崩ず。  
てんわうほう

年一百十六。

劔池島上陵に葬る。  
つるぎのいけのしまのうしろのみやまにほうむ

追諡して  
つゐし

孝元天皇と曰ふ。  
かうげんてんわう い